

第7回部会、作業チームおよびワーキンググループの活動報告

■第7回部会

令和5年9月5日、9月13日に対面とオンラインの併用形式で3つの部会を開催した。

1. 各部会の開催概要

< 海域・陸域対策部会 >

日時：令和5年9月5日（火）10：00～12：00

出席者：24名（個人6名、団体・法人5(8名)、行政7(13名) ※重複3名)

< 普及啓発・適正利用部会 >

日時：令和5年9月5日（火）13：00～15：00

出席者：22名（個人7名、団体・法人8(11名)、行政5(10名) ※重複6名)

< 学術調査部会 >

日時：令和5年9月13日（水）16：30～18：30

出席者：22名（個人13名、団体・法人3(6名)、行政3(7名) ※重複4名)

2. 石垣市の取組について

各部会において、石垣市サンゴ保全庁内連携チームについて、石垣市役所環境課（普及啓発・適正利用部会では環境省石垣自然保護官事務所）より報告があった。出席者からの意見として、竹富町を含めた八重山地域での取組に対する期待等が寄せられた。

3. 作業チーム、陸域負荷対策WGの進捗報告(学術調査部会)

令和5年8月31日に実施された第5回学術調査部会作業チームにおいて、摂餌による白化対策の可能性、海水循環装置による水温緩和の可能性等について討論を行ったことが報告された。

また、令和5年9月12日に実施された第1回陸域負荷対策ワーキンググループにおいて、陸域および海域におけるリンの蓄積状況、フード・トランスフォーメーションの取組、有機質肥料によるオオムギ生産などの研究成果が報告され、活発な議論が行われたことが報告された。

4. 次期行動計画の枠組み、見直しスケジュールについて

各部会において、次期行動計画の見直しの進め方、スケジュール、方針、重点項目の設定について事務局より説明があった。

5. 行動計画 2019-2023 の取組成果と課題について

各部会において、「行動計画 2019-2023 取組方針」にかかる評価シートについて、事務局より取りまとめ結果の報告があった。

6. 意見交換

各部会において、行動計画 2019-2023 の取組成果と課題および次期行動計画の重点項目について意見交換を行った。重点項目に関する主な提案を下記に示す。

<海域・陸域対策部会>

- 海域利用ルールの策定、展開
 - ・ 米原海岸で策定された利用ルールを全海域に広げる
- 栄養塩対策
 - ・ 栄養塩への言及を増やし、重点項目とする
 - ・ 畜産農家の実態把握、どうやって共同できるかを検討したい
- その他
 - ・ ブダイ等のスクレイパー魚類がサンゴの生存に重要であるという研究結果がある。このような魚類の密度も大切になってくる
 - ・ 漁業者とマリンレジャーセクターの関係性等を分析する必要がある

<普及啓発・適正利用部会>

- 環境学習
 - ・ 八重山の全ての子どもたちにサンゴ学習を提供する
- 海域利用ルール
 - ・ 米原海岸で策定された利用ルールを全海域に広げる
 - ・ 西表島エコツーリズム推進全体構想でのアンカーリングのルールなどを他の海域にも展開
- 持続可能な観光
 - ・ 協力金や訪問税などの海域管理の資金となる仕組みづくり
 - ・ 海域ブイ設置の推進
 - ・ レジャー船の船上トイレの改善、利用マナー向上
 - ・ ダイビング等の利用状況の把握
- 石西礁湖の認知度向上
 - ・ Youtube チャンネル開設、飾り文字の活用
 - ・ 沖縄限定のポケモン（サニーゴ）の活用
- 交流や議論の場づくり
 - ・ 月1回協議会メンバーで夜の意見交換会を行うなど

<学術調査部会>

- 陸域負荷対策
 - ・ 循環型農法の推進、ブランディング（インセンティブ付与）
 - ・ サンゴへの影響の定量化（閾値検討）、メカニズム解明の研究継続。
（降雨時の流入負荷状況の詳細把握、地下水モデルの高度化など）。
 - ・ 5年後に排水基準等のガイドライン策定を目指す。
- 科学コミュニケーター活用
 - ・ 複雑でアカデミックな内容を委員や一般市民に分かりやすく伝えるため、普及啓発資料のデザインをはじめ、トータルでコーディネートできる専

門家に協議会へ入ってもらおう。

- 取組方針 1-④「分かったことを結びつけて科学的に知る」の取組拡充
 - ・ 取組数がほとんど見られない状況にある。技術的ハードルが高いため、協議会としてどのように取り組んでいるか検討が必要。
- 協議会メーリングリストの活性化
 - ・ 現状は、協議会等の開催通知が主として使われており、全委員への伝達されるため、個別の情報発信や交流に際してはやや敷居が高い。部会ごとのメーリングリスト（既存のものはあるが現在は、ほとんど活用されていない）の活用や、テーマ別にフランクな話ができる場（オンライン会議等）を設けられる環境整備が望ましい。

■ 学術調査部会作業チーム

日 時：令和 5 年 8 月 31 日（木） 13：15～15：30

出席者：8 名（個人 4 名、団体・法人 1(2 名)、行政 1(2 名)、

話題提供・有識者 1 名 ※重複 1 名)

- ・ サンゴ群集修復事業で造成した幼生供給拠点を対象として、白化現象の緊急対策を講じる必要がある。遮光手法や深場への移動以外で、白化対策として可能性のある最新の研究知見を話題提供いただき、現場への適用などについて議論した。
 - ・ 給餌による白化対策の可能性（琉球大学 藤村先生）
 - ・ 海水循環装置による水温緩和の可能性（広島大学 小池先生）

■ ワーキンググループの活動報告

（仮称）陸域負荷対策ワーキンググループ（以下、陸域負荷対策 WG）、漁場再生ワーキンググループ（以下、漁場再生 WG）、八重山のサンゴ礁を守り育むフレンドシップワーキンググループ（以下、フレンドシップ WG）が活動を行った。陸域負荷対策 WG および漁場再生 WG の活動概要を以下に示す。フレンドシップ WG の活動概要は資料 5 で示す。

1. 陸域負荷対策 WG

日 時：令和 5 年 9 月 12 日（火）16：30～19：00

出席者：34 名（個人 13 名、団体・法人 3(6 名)、行政 4(12 名) ※重複 4 名
話題提供・有識者 3 名、オブザーバー 4 名)

- ・以下のとおり、本 WG のテーマに関連する研究および施策について話題提供いただいた。また、安元剛・純 委員より蓄積型栄養塩の調査状況・計画の報告のほか、環境省よりグリーンワーカー事業について報告された。

- ① 農地におけるリン蓄積状況調査（鳥取大学工学部 宮本先生）
- ② フード・トランスフォーメーションが結ぶ環境・観光アイランド実現拠点形成（琉球大学農学部 平良先生・塚原先生）
- ③ 沖縄のオオムギ生産における有機質肥料による化学肥料代替の可能性（琉球大学大学院農学研究科 有村氏、琉球大学農学部 諏訪先生）
- ④ 石垣市サンゴ保全庁内連携チームの立上げ（石垣市環境課 上地係長）

2. 漁場再生 WG

第 1 回) 日 時：令和 5 年 7 月 3 日（月）17：00～19：00

出席者：10 名（個人 3 名、団体・法人 2(3 名)、行政 2(5 名) ※重複 1 名)

- ・水産技術研究所の名波氏より、石西礁湖の魚類生息とサンゴの関係性に関する現状説明いただいた後、水産資源を増やすためのサンゴ群集の再生の方向性について議論した。

第 2 回) 日 時：令和 5 年 8 月 9 日（水）16：30～18：00

出席者：10 名（個人 3 名、団体・法人 2(5 名)、行政 1(3 名) ※重複 1 名)

- ・漁業の観点からの情報共有を主とし、石西礁湖内のいくつかの海域を例にとって魚類の分布特性などを議論した。稚魚や餌資源も含めた水産資源の回復を図ることを目標とし、いくつかの魚種を例示して、成長段階（稚魚、成魚）や機能（餌場、隠れ家）、関連性の強いサンゴタイプなどを考慮して、

いくつかのストーリーを検討することとなった。